●水とのたたかい

川の子ども新聞

水とのたたかい。むかしの人たちの知恵。

【利根川博士といっしょに見る】

おや、博士、きょうはお出かけ？　どうやら、ボトムくんをどこかにつれていくみたい。

博「ちょ、ちょっと待って、はかせ？。どこ、行くの？」
ボ「あ、こっち、こっちじゃ、ボトム。これ、これ…、これをごらん」
博「なあに、これって？　…なあんだ、ただのドテじゃないの」
ボ「ドテ？」（と、たおれる）「あのね、ボトム。これは、ただのドテじゃないんだ。むかしの人の知恵が、いっぱい、つまってるんじゃよ」
博「なるほど、いっぱい石がつまってる！」
ボ「あのね、そーゆーことじゃなくて…。つまり、ここには『水とのたたかい』という歴史がきざまれているんじゃ」

昭和22年の秋のこと。「カスリン台風」という、とても大きな台風が日本をおそった。大雨のために利根川ではものすごい洪水がおきて、「決壊」といって、堤防がこわれ、そのはげしい流れは人びとの住む家まで押し流してしまった。

この「岩神鉄線蛇籠護岸」は、そのカスリン台風のあと、昭和23年につくられたもの。大きな洪水になっても堤防がこわれないように、当時の人たちが考え、職人さんたちが手づくりでしあげたんだ。

その1　手づくりのワザ、弾〜い堤防

●岩神鉄線蛇籠護岸（大渡橋下流・利根川左岸）

博「…というわけなんじゃよ」
ボ「へーん。でも、どうやって、これ、つくったのっ？」
博「それは、まず『蛇籠』といって、太い鉄線で円筒形の長〜いカゴをあむ。その中に石をつめたものを何本も、積み上げていったんじゃ」
ボ「へえ〜」
博「この蛇籠護岸は、2000以上もつづいていて、たての長さも12くらいい、とても規模の大きなものだ。50年以上たち、たいまでも、しっかり堤防の役わりをはたしているんじゃよ」

おや？　この石碑はなあに？

大渡橋のたもとにあるこの石碑は、カスリン台風のあとにたてられた、供養塔。なくなった人への祈りと、防災の願いがこめられているんだ。

その2　石堤は100年前のスグレモノ

●岩神の石堤（グリーンドーム前橋のまわり）

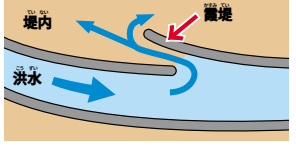
博「こんどはこっちじゃ、ボトム」
ボ「あれ？　グリーンドーム？」
博「そうじゃなくて、そのドームのすぐ前、このドテじゃよ」
ボ「こんどもドテ！」
博「でも、これもフツーのドテとはちょっとわけがちがう。それに、明治30年代というから、いまから100年くらい前につくられたものなんじゃ」

この「岩神の石堤」は、明治23年におこった大きな洪水をきっかけにつくられたもの。全長693。その石組みはとてもがんじょうで、100年ものあいだ、かたちをたもっている。グリーンドームをつくるとき（昭和63年）に一部、堤防をつなげて改造したけど、それまで石堤は4つの部分にわかれていた。

ボ「なぜ、4つにわかれていたの？」
博「それは、こういうことなんじゃ…」

この石堤は、ずっとひとつにつなげるのではなく、わざと小さなすきまをあけてつくられた。こうすることで（ちょっとむずかしいけど、図を見ながら読んでね）、川が洪水であふれたら、堤防を決壊させずに、少しずつ水を堤内（川のほうではなく、人びとが住んでいる土地のほう）に流し、洪水が終われば、こんどはそのすきまから、堤内にたまった水を流し出す、というふうにしたんだ。

このような堤防をとくに「霞堤」とよんでいるよ。



その3　新しく生まれ変わった「水制」

●岩神水制工（中央大橋の下）

橋の上からみた「水制」のあと

博「次は、これ」
ボ「なあに？　なんにもないよ」
博「よく見てごらん。これじゃよ、これ。このコンクリートのブロック！」
ボ「あ…、あった、あったで」

中央大橋の下にわずかにこし、岩神水制工のあと。これも蛇籠護岸と同じように、カスリン台風のあと、昭和24年につくられた。

「水制」というのは、川の流れのはやさを弱めたり、流れの向きを変えたりするために、川に向かって突き出してつくられるもの。それによって、洪水などで川岸がくずれないようにする、というわけなんだ。

だから、いまの親水公園でも…、ほら！　ちゃあんと、水制がつくられているね！

博「いまの水制は、むかしの水制があった場所なんじゃ。だから、新しく生まれ変わった、といっていいんじゃないかな」
ボ「ふーん」

ちなみに、むかしはコンクリートブロックだったけど、いまでは、「石積み」を生かしてつくられている。このように、いまの川づくりは、なるべく自然に近いかたちで、という考え方になってきているんだ。

親水公園前につくられた、いまの「水制」。川のけしきと合っているね

博「うーん。じつは、そこの親水公園ができる前は、もっとりっぱなものがのっていたんじゃが…。でも、その『むかしの人たちの知恵』は、いまの親水公園にもうけつがれている、といえるんじゃよ」
ボ「ドーゆーこと？」

その4　えー？　これが「ウシ」だって！

●レール式大聖牛（前橋公園・利根川沿岸）

ボ「ねえ、博士。この三角形の模型みたいなの、なあに？」
博「ウシじゃよ、ウシ！」
ボ「えー？　じょうだん言わないで！」
博「いや、ホント！　ホントなんじゃよ」

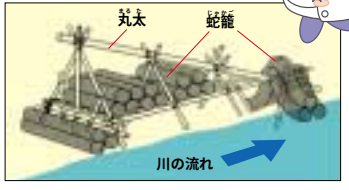
博士の言うとおり、ほんとうに、牛といってこれも「水制」のなかまなんだ。

「牛」には、いろいろな種類があるけど、下の図のように枠を3つの三角形でささえたものは、とくに「聖牛」とよばれ、大きさによって「中聖牛」と「大聖牛」に分けられた。

このような「牛」は江戸時代よりもっと古くからあって、丸太（太い木の棒）で組み上げた枠を川岸にすえつけ、その枠の中に石をいくつも入れたカゴをのせて、流されないようにした。そうして、洪水などで川岸がくずれないようにしたんだ。

ボ「でも、これ、木の棒じゃないよ」
博「そう、じつは、レールなんじゃ」

この「大聖牛」のおもしろいところは、電車のレールを使っていること。これは、昭和20年代の終わりに廃線になった「チンチン電車（むかし、前橋・渋川・高崎などを走っていた東武鉄道の路面電車）」のレールを有効利用したもので、昭和30年につくられた。いま、みんながとりくんでいる「リサイクル」のさきがけというわけだね。



というわけで、博士、ボトムくん、おつかれさま。

以上の4カ所は、大渡橋の下から親水公園まで、歩いて見学することができるよ。見学するときは、クルマに気をつけてね。